



くすりと健康

一般社団法人
神戸市薬剤師会

錠剤の一生

今回は、お薬が口の中に入ってから体の外に出ていくまでを紹介します（あくまでも一例であり、すべてのお薬がこの通り進むわけではありません）。

飲み薬の錠剤はまず口の中に入ります。次に目指す場所は胃ですが、その前に難所があります。それはノドです。高齢者の方の中には、飲み込む力が弱くなかなか飲み込めなかったり、気管の方に行ってしまったたり「誤嚥」する方もおられます。最近では、粉薬のようにむせることなく、錠剤の手軽さで服用できる「口腔内崩壊錠」（注1）も増えてきていますが、まだまだ普通の錠剤の方が多いのが現状です。普通の錠剤は、ゼリーなどを使って服用すると、誤嚥することなくうまく服用することができます。

無事にノドを通過すると次は食道に入ります。普通はそのまま胃までたどり着くのですが、一緒に飲む水の量が少なかったり、横になつたまま（寝たまま）飲んだりすると、食道の途中で引っかかり、錠剤が溶けて食道潰瘍（注2）になることがあるので、必ずコップ1杯の水で、体を起こした状態で、錠剤を服用するようにしましょう。

さて、錠剤は胃に到着しました。胃の中で錠剤はドロドロに溶けていき、有効成分（お薬）が出てきます。錠剤のなかには、胃を荒らすお薬や胃酸に弱いお薬など、胃の中で溶けないようにコーティングされたものもあります。そういう錠剤は、噛んだりつぶしたりすると胃を荒らしたり、薬の効き目が弱くなったりするので、噛まずにそのまま服用しましょう。

次にお薬は十二指腸から小腸へと運ばれ、そこで血液の中に入ります。

血液の中に入ったお薬は、血管を通して全身に運ばれ、お薬本来の役目を果たします。

役目を果たしたお薬が次に運ばれるのは、肝臓です。お薬は体にとつて異物なので、体の外に出そうとします。そのため肝臓ではお薬を体の外に出しやすい形に変化させます「代謝」。

代謝を受けて形を変えたお薬は、腎臓に向かいます。そこで膀胱に送られ、おしっことして体の外に出て行き、その役目を終えます。

（注1）口腔内崩壊錠：口の中で錠剤が溶け、唾液だけでも服用できるように加工された錠剤です。

（注2）潰瘍：胃潰瘍が一般的に知られていますが、皮膚や粘膜などがただれたり、へこんだりした状態をいいます。逆流性食道炎も食道潰瘍の一種です。